

伊藤公資料館・東行記念館

連携企画展

# 晋作と同志たち

— 伊藤博文・山縣有朋・井上馨 —

右上:高杉晋作写真 部分(当館蔵)、右下:伊藤博文写真 部分、左上:山縣有朋写真 部分、左下:井上馨写真 部分  
(高杉以外の伊藤・山縣・井上の写真は東行庵蔵・当館寄託)

下関市立東行記念館

山口県下関市大字吉田1184番地

【電話番号】083-284-0212

【開館時間】9:30~17:00(最終入館16:30)

【休館日】毎週月曜日(9月23日・10月14日・11月4日は開館)  
祝日の翌平日

【観覧料】一般300円(240円)・大学生等200円(160円)

※( )内は20名以上の団体料金

※下関市内及び北九州市内に居住する65歳以上の方は観覧料150円

※18歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒、  
障害者手帳等をお持ちの方は無料

※年齢、居住地等で割引を受ける場合は、公的証明書が必要

9/18(水)~12/15(日)

**連携企画展イベント開催中!!**

当企画展と伊藤公資料館で開催する  
「高杉晋作と伊藤博文~幕末志士の  
熱き挑戦~」の両展示を観覧された  
来館者には、記念品を贈呈します。

伊藤公資料館・東行記念館連携企画展  
**晋作と同志たち**  
 — 伊藤博文・山縣有朋・井上馨 —

激動の幕末期において、奇兵隊の結成や幕長戦争での指揮など、長州で活動した高杉晋作。その活躍の背景には、同志たちの支えがありました。今回の企画展では、晋作と繋がりの深い伊藤博文・山縣有朋・井上馨に着目します。伊藤は晋作と共に行動する機会が多く、山縣は晋作が中心となって結成した奇兵隊の軍監を務め、井上は萩藩内訌戦時に鴻城隊の総督として晋作たちに呼応しました。彼らと晋作は長州のために尽力したのです。しかし、晋作は幕長戦争のさなかより体調不良を訴え、新時代を迎えることなく生涯を閉じました。

明治を迎え、伊藤・山縣・井上は、近代化を推し進める政府内で頭角を現します。伊藤は政府で最大の實力者にまで駆け上がり、大日本帝国憲法の制定に貢献。山縣・井上も軍政や外交で活躍しました。立身出世を遂げた伊藤らでありましたが、その一方で晋作の顕彰活動に協力したほか、晋作の遺族への支援も行っています。伊藤らは、幕末とともに駆け抜けた晋作のことを忘れず、高杉家や彼の妻うの(梅処)との繋がりを絶やさなかつたのです。

**長州の武士**



高杉晋作馬上姿像 (東行庵蔵・当館寄託)

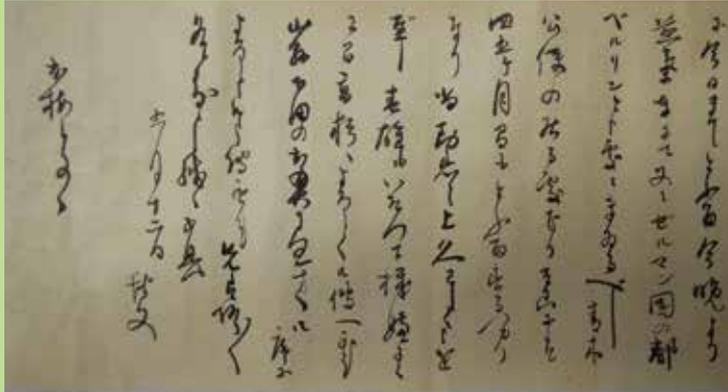
**高杉晋作**

**幕末期の伊藤博文と晋作**



高杉晋作・伊藤博文・三谷国松写真 部分 (当館蔵)

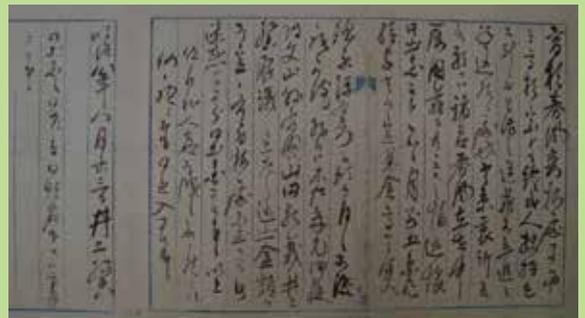
※高杉らの写真は**九月一八日(水)〜一〇月二日(水)**まで実物を展示しています。



伊藤博文書簡 伊藤梅子宛 部分 (伊藤公資料館蔵)

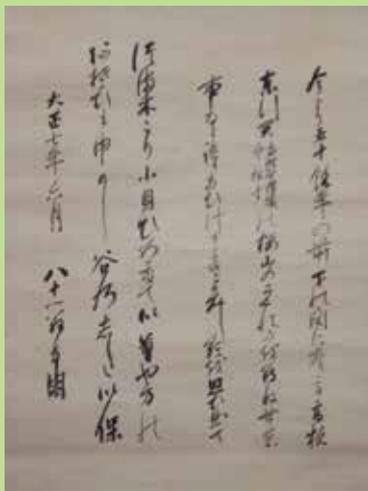
**ドイツに向かう伊藤博文の書簡に晋作の忘れ形見が登場する**

**大正七年(一九一八)六月、晩年の山縣有朋が晋作と語り合った思い出を振り返る**



梅処生活資金募集回状 部分 (東行庵蔵・当館寄託)

**井上馨・伊藤博文・山縣有朋らが晋作の妻うの(梅処)を支援する**



山縣有朋和歌書 部分 (東行庵蔵・当館寄託)

**注目資料**

注目資料は、伊藤博文が妻梅子に宛てた書簡です。ドイツに向かう伊藤は梅子に、随行している高杉晋作の息子春雄(東一)の様子を高杉家に伝えてほしいと頼んでいます。明治以降の高杉家と伊藤家の関係を知ることができる貴重な資料です。この機会に、ぜひ、ご覧ください。



学芸員久保慎一郎

**交通のご案内**

公共交通機関でお越しの方  
 JR小月駅から美祢駅・湯谷・吉田方面行のバスに乗車(約15分)  
 JR下関駅から美祢駅・湯谷・吉田方面行のバスに乗車(約50分)  
**バス停**  
 「東行庵入口」で下車(徒歩10分)  
 「東行庵前」で下車(徒歩5分)

お車でお越しの方  
 小月ICより5~10分  
 美祢西ICより10~15分

